

先週から今週初めにかけては台風 11 号の通過により、本州・四国を中心に各地で大きな災害が発生し、北海道でも大雨による崖崩れや風による住宅被害が発生したほか、鉄道や海・空の便が運休・欠航して夏の観光にも大きな影響が出ました。一方、オホーツク海沿岸では、5 月下旬から比較的降水量の少ない状況が続いていましたが、今回の台風 11 号の他にも 7 月下旬から前線を伴った低気圧の通過が相次ぎ、7 月下旬及び 8 月上旬は、平年に比べて「かなり多い」降水量となりました（気象庁データ）。

▼さて、海明けから始まったオホーツク沿岸のけがにかご漁業は、春先に遅くまで居座った流水の影響で出漁が遅れた漁協もありましたが、先週までに全ての漁協で終漁となりました。オホーツク総合振興局の集計によると、今年の管内の漁獲は、許容漁獲量の引き上げ（H25 年：600t→H26 年：650t）や単価の上昇（前年比 107.6%）もあり、数量で 645t、金額で 10 億 9 千万円と、昨年と比べて、それぞれ約 8%及び約 16%増加しました。網走水試ではオホーツク海域でのけがにかご漁業を持続的かつ安定的に行うために、ケガニ資源のモニタリング調査を毎年実施しており、今年も 6 月下旬から 7 月上旬にかけて管内各漁協等のご協力を得て、オホーツク振興局管内の「ケガニ資源密度調査」を行いました。

▼今年の調査結果では、管内全体の甲長 7cm 以上の雄（来年度の漁獲対象資源）の資源量指数は、ほぼ昨年並（前年比 0.97 倍）でしたが、海域別にみると西部海域（幌内～小向沖）では昨年より増加（前年比 1.1 倍）したものの、中部（湧別～常呂沖）及び東部（網走～峰浜沖）海域では大幅に減少（前年比 0.6 倍及び 0.5 倍）していました。また、甲長 7cm 未満の雄（再来年以降に漁獲対象となる資源）の資源量指数は各海域とも減少し、管内全体では前年比 0.4 倍と 2 年連続で大幅に減少しました（調査結果の詳細は網走水試 HP をご覧下さい）。この調査結果は、宗谷管内の調査結果（稚内水試担当）と併せて、来年の許容漁獲量設定の基礎資料となるオホーツク海域全体の資源評価並びに ABC（生物学的許容漁獲量）の算出に利用します。

▼最後に、水産研究本部の成果発表会が 8/8 に札幌で開催され、網走水試の「海底画像によるホタテガイ高精度資源量推定技術の開発」を始め、シジミ・ワカサギ、マナマコ、サケなどに関する 14 の成果発表が行われました。今年は新たな試みとして、全ての成果発表を口頭とポスターセッションの両方で行いましたが、ポスター会場では、これまでも増して参加者と発表者の活発な質疑・応答や意見交換が行われていました。成果発表会の様子や講演要旨は水産研究本部 HP「マリンネット北海道」の下記 URL に掲載されていますので、ご覧頂ければ幸いです。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/central/section/kikaku/tkh4vd0000004izu.html>